

本号では、永島英樹先生の企画で「人工知能（AI）革命—脊椎脊髄診療の将来像は？」が特集されました。この分野のエキスパートの先生方に、AIによる脊椎脊髄疾患の早期診断・診断向上などへの支援や手術合併症リスク・予後予測などについて現状と課題、将来への展望を解説していただきました。それぞれの先生の取り組みを拝読して、AIの進歩はこれまでの医療を変える力があり、まさにAI革命と呼ぶべきものだと感じました。

たとえば、鈴木久崇先生は、単純X線写真を用いて専門医への紹介を要する腰部脊柱管狭窄症を自動判定するシステムについてご紹介されました。AIが非専門医と専門医をつなぐ架け橋の役割も担う可能性があると感じました。また、川崎良先生には、診断支援だけでなく、AIによる医療従事者の業務への支援など「AIホスピタル」実現に向けての阪大病院での取り組みをご紹介いただきました。これらの報告を拝読しますと、AIを活用することによって、近い将来、より安全でより効果のある個別化医療や医療従事者の負担軽減などが期待できると感じられました。ぜひ読者の皆様も本特集から“待ち遠しい将来像”を思い描いていただければ幸いです。

さて、AIが発展していく中で、われわれが大切にすべきことが2つあるのではないかと思います。1つ目は、AIの活用に関係をもつことです。映画「AI崩壊」（私の好きな俳優の大沢たかお、三浦友和らが出ています）では、ある事情により医療AIが暴走し、人間の生死を選別するようになっていきました。AIは“善悪を区別する力”をもち合わせていません。AIをどのように活用するか、“善悪を区別する力”をもつわれわれに大きな責任がかかっていると思います。

もう1つは“アート”を追求していくことです。“アート”とは、たとえば徒手筋力検査や腱反射を正確にとって評価をすることや、外科の先生方がされる手術などだと思います。これらはAIにできることではなく、今後ますますわれわれは“アート”を追求することが大切になってくると思います。

最後になりましたが、ご執筆いただきました先生方に心より御礼申し上げます。

（黒川勝己）

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

萬年 徹 小柳知彦 田代邦雄
国分正一 服部孝道

編集委員

松山幸弘（編集委員長）
亀山 隆 黒川勝己 高橋敏行
高見俊宏 筑田博隆 永島英樹
中西一義 中村雅也 西田康太郎
原 政人 飛驒一利 堀 正明
安原隆雄

Vol. 38 No. 4

（2025年3月25日発行）

毎月1回25日発行

1部定価（本体2,500円＋税）

（配送料別）

年きめ予約購読料 33,300円＋税

送料弊社負担

発行／株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷6-17-9

本郷綱ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>

（担当：西本・山岸）

印刷所／三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所／

（株）文栄社

TEL 03-3814-8541

（株）ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.
6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2025,
Printed in Japan

JCOPY 〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。